

令和4年度

6期生

1年次授業シラバス

しらかわ介護福祉専門学校

目 次

領域：人間と社会

人間の理解	2
人間関係論 I	3
情報処理の基礎	4

領域：介 護

介護の基本 I	5
介護の基本 II	7
介護の基本 III	9
コミュニケーション技術	11
生活支援技術 I	13
生活支援技術 II	14
介護過程 I	18
介護総合演習 I	20
介護総合演習 II	22
介護実習 I-1 段階	24
介護実習 I-2 段階	25

領域：こころとからだのしくみ

発達と老化の理解 I	26
発達と老化の理解 II	27
認知症の理解	28
認知症援助方法論	29
障害の理解	30
こころとからだのしくみ I	32
医学一般	33

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
人間の理解	30	1	1年後期	講義	宗形 昭典 (介護職員として介護施設に6年勤務)
【授業の概要】					
「人間」の理解を基礎として人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする。					
【到達目標】					
①利用者の尊厳の意義と利用者主体について理解できる ②尊厳を守る介護と自立支援の関係について理解できる					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉士養成講座1 第2版 「人間の理解」(中央法規出版) 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			教員
1	人間の尊厳と人権・福祉理念	授業内のルール 「尊厳」「人権」とはなにか			宗形
2	人間の尊厳と人権・福祉理念	「尊厳」の成り立ち 理念の中の尊厳			宗形
3	人間の尊厳と人権・福祉理念	人権思想の潮流とその具現化			宗形
4	人間の尊厳と人権・福祉理念	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷①			宗形
5	人間の尊厳と人権・福祉理念	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷②			宗形
6	人間の尊厳と人権・福祉理念	戦後の福祉のあり方への模索			宗形
7	人間の尊厳と人権・福祉理念	生命倫理と人権			宗形
8	人間の尊厳と人権・福祉理念	権利侵害が起こる状況			宗形
9	自立の概念の多様性	自立の多様性			宗形
10	自立の概念の多様性	自立と意欲			宗形
11	尊厳の保持と自立	各国の社会保障と特徴			宗形
12	尊厳の保持と自立	尊厳を守る法律			宗形
13	人権・福祉理念①	自立と自律の関係性			宗形
14	人権・福祉理念②	尊厳と自立の関係性			宗形
15	まとめ	単位認定試験・まとめ			宗形
【評価方法】					
単位認定試験(筆記)・授業態度・出席による評価。					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
人間関係論 I	30	1	1年前期	講義	宮尾 直木 介護職員として介護施設に4年勤務 介護支援専門員として居宅支援事業所に12年勤務
【授業の概要】 相談援助職者として必要な人間の尊厳や権利擁護、対人援助関係における基本的態度や原則についてなどを学び、チームマネジメント、チームケアの字戦力向上を目指し、基礎的コミュニケーション能力を養うための学習とする。					
【到達目標】 ①自分や他者を理解することができる。 ②介護を必要とする人及びチームで働くうえでのコミュニケーションについて理解することができる。 ③チームマネジメントの全体像を理解し、協働のあり方や組織の構造と役割について理解することができる。					
【テキスト・参考書】 最新・介護福祉士養成講座 1 第2版 「人間の理解」 (中央法規出版) 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			教員
1	人間と人間関係	人間関係形成のために必要なこと「ジョハリの窓」			宮尾
2	人間と人間関係	発達心理学・社会心理学からみた人間関係			宮尾
3	人間と人間関係	心理学からみた人間関係			宮尾
4	人間と人間関係	集団の人間関係・人間関係とストレス			宮尾
5	対人関係における コミュニケーション	バイステティックの7つの原則			宮尾
6	組織における コミュニケーション	組織におけるコミュニケーション「トップダウン・ボトムアップ」			宮尾
7	組織における コミュニケーション	組織において求められるコミュニケーション・ブレインストーミング			宮尾
8	組織における コミュニケーション	組織において求められるコミュニケーション・ブレインストーミング			宮尾
9	対人援助関係と コミュニケーション	対人関係におけるコミュニケーション 言語・非言語コミュニケーション			宮尾
10	対人援助関係と コミュニケーション	人間関係の発展とコミュニケーション			宮尾
11	組織における コミュニケーション	理解する、受け止める、伝える、引き出す力			宮尾
12	組織における コミュニケーション	演習			宮尾
13	組織における コミュニケーション	演習			宮尾
14	対人関係における コミュニケーション	まとめ			宮尾
15	まとめ	単位認定試験			宮尾
【評価方法】 科目の最終回に評価を実施する。授業出席・授業態度・筆記試験・レポートによる評価。					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(主な実務経験)
情報処理の基礎	30	1	1年前期	講義	加茂 直樹 (実務経験無)
【授業の概要】					
①介護関連情報を検索したり様々な情報収集にインターネットを有効に活用する方法を学ぶ。 ②企画書やレポート及び学会発表等のプレゼンテーションができる技術を学ぶ。 ③ワード・エクセル・パワーポイント等のソフトの使い方を学ぶ。					
【到達目標】					
①正しいパソコンの操作や、インターネット使用時の注意事項などが理解できる。 ②Word、Excel、PowerPointの使い方を理解し、プレゼンテーション技術を習得することができる。					
【テキスト・参考書】					
改訂版よくわかるWord&Excel&Power P int (FOM出版)					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			教員
1	パソコン・インターネットの活用 ルール	インターネット活用例①			加茂
2	パソコン・インターネットの活用 ルール	インターネット活用例②			加茂
3	Word	日本語変換・文章入力・入力オートフォーマット			加茂
4	Word	入力オートフォーマット・範囲選択 コピー			加茂
5	Word	移動・書式・印刷・ワードアート			加茂
6	Word	画像挿入・アート効果・ページ罫線 表作成			加茂
7	Word Excel	表作成・段落罫線 セル移動・データ入力			加茂
8	Excel	データ入力・フェイルハンドル・数式 関数・絶対参照			加茂
9	Excel	関数・端数処理・書式			加茂
10	Excel	グラフ・データベース機能			加茂
11	Excel PowerPoint	データベース機能 PowerPoinの概要			加茂
12	PowerPoint	箇条書きプレースホルダー 図形の挿入			加茂
13	PowerPoint	画面の切り替え・アニメーション 実行・ノート・印刷			加茂
14	発表と評価	課題作成			加茂
15	発表と評価	課題提出・発表			加茂
【評価方法】					
出席・授業態度・課題作成の総合評価。					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(主な実務経験)
介護の基本 I	60	2	1 年前期	講義	近藤秀樹 (介護職員として介護施設に18年勤務)
【授業の概要】					
介護の成り立ちや介護福祉の理念を基に「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解する。また、介護を必要とする方の理解や介護福祉士の役割を深め、介護福祉士に求められる専門職としての思考や態度を学ぶ。					
【到達目標】					
介護の成り立ちを理解する。また、介護福祉の基本理念や倫理を学ぶことで尊厳や自立の考え方を身に付けることができる。					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉士養成講座3 第2版「介護の基本 I」(中央法規出版) 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			教員
1	介護福祉とは	授業の流れ 自己理解			近藤秀樹
2	介護福祉とは	社会福祉士及び介護福祉士法			近藤秀樹
3	介護福祉とは	介護の成り立ち			近藤秀樹
4	介護福祉とは	介護の成り立ち			近藤秀樹
5	介護福祉とは	介護の概念の変遷			近藤秀樹
6	介護福祉とは	介護の概念の変遷			近藤秀樹
7	介護福祉とは	個人の尊厳			近藤秀樹
8	介護福祉とは	利用者主体の自立			近藤秀樹
9	介護福祉とは	介護の基本理念			近藤秀樹
10	介護福祉とは	介護の基本理念			近藤秀樹
11	介護福祉とは	介護の倫理			近藤秀樹
12	介護福祉とは	介護の倫理			近藤秀樹
13	介護福祉とは	前期の振り返り			近藤秀樹
14	介護福祉とは	前期の振り返り			近藤秀樹
15	単位認定試験	試験・解説・まとめ			近藤秀樹
【評価方法】					
科目の最終回に評価を実施する。授業出欠・授業態度・試験・レポートによる評価。					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(主な実務経験)
介護の基本 I	60	2	1年後期	講義	近藤秀樹 (介護職員として介護施設に18年勤務)
【授業の概要】					
介護の成り立ちや介護福祉の理念を基に「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解する。また、介護を必要とする方の理解や介護福祉士の役割を深め、介護福祉士に求められる専門職としての思考や態度を学ぶ。					
【到達目標】					
自立支援や介護予防について学ぶことで介護福祉士としての考え方や態度を習得することができる。					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉士養成講座3 第2版「介護の基本 I」(中央法規出版) 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			教員
16	介護福祉とは	介護福祉士の活動の場と役割			近藤秀樹
17	介護福祉とは	介護福祉士の活動の場と役割			近藤秀樹
18	介護福祉とは	自立支援と自己決定			近藤秀樹
19	介護福祉とは	自立支援と自己決定			近藤秀樹
20	介護福祉とは	ICFの考え方			近藤秀樹
21	介護福祉とは	ICFの考え方			近藤秀樹
22	介護福祉とは	リハビリテーションと自立支援			近藤秀樹
23	介護福祉とは	リハビリテーションと自立支援			近藤秀樹
24	介護福祉とは	障害者の自立支援			近藤秀樹
25	介護福祉とは	障害者の自立支援			近藤秀樹
26	介護福祉とは	介護予防			近藤秀樹
27	介護福祉とは	介護予防			近藤秀樹
28	介護福祉とは	後期の振り返り			近藤秀樹
29	介護福祉とは	後期の振り返り			近藤秀樹
30	単位認定試験	試験・解説・まとめ			近藤秀樹
【評価方法】					
科目の最終回に評価を実施する。授業出欠・授業態度・試験・レポートによる評価。					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(主な実務経験)
介護の基本Ⅱ	60	2	1年前期	講義	近藤秀樹 (介護職員として介護施設に18年勤務)
【授業の概要】					
介護を必要とする人の生活を支援する視点から、フォーマル・インフォーマルサービスによる地域連携についての学び、多職種連携の介護の実践、介護従事者の心身の健康についての学ぶ。					
【到達目標】					
介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉士養成講座4 第2版「介護の基本Ⅱ」(中央法規出版) 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			教員
1	「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解	その人らしさ(ニーズ)			近藤秀樹
2	「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解	その人らしさ(ニーズ)			近藤秀樹
3	生活を支えるフォーマルサービス	介護保険制度におけるサービス 全体			近藤秀樹
4	生活を支えるフォーマルサービス	介護保険制度におけるサービス 居宅			近藤秀樹
5	生活を支えるフォーマルサービス	介護保険制度におけるサービス 居宅			近藤秀樹
6	生活を支えるフォーマルサービス	介護保険制度におけるサービス 居宅			近藤秀樹
7	生活を支えるフォーマルサービス	介護保険制度におけるサービス 地域密着・施設			近藤秀樹
8	生活を支えるフォーマルサービス	介護保険制度におけるサービス 地域密着・施設			近藤秀樹
9	生活を支えるフォーマルサービス	介護保険制度におけるサービス 地域密着・施設			近藤秀樹
10	生活を支えるフォーマルサービス	障害者福祉サービス			近藤秀樹
11	生活を支えるフォーマルサービス	障害者福祉サービス			近藤秀樹
12	生活を支えるフォーマルサービス	障害者福祉サービス			近藤秀樹
13	生活を支えるフォーマルサービス	前期の振り返り			近藤秀樹
14	生活を支えるフォーマルサービス	前期の振り返り			近藤秀樹
15	まとめ	単位認定試験			近藤秀樹
【評価方法】					
科目の最終回に評価を実施する。授業出欠・授業態度・試験・レポートによる評価。					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(主な実務経験)
介護の基本Ⅱ	60	2	1年後期	講義	近藤秀樹 (介護職員として介護施設に18年勤務)
【授業の概要】					
介護を必要とする人の生活を支援する視点から、フォーマル・インフォーマルサービスによる地域連携についての学び、多職種連携の介護の実践、介護従事者の心身の健康についての学ぶ。					
【到達目標】					
介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉士養成講座4 第2版「介護の基本Ⅱ」(中央法規出版) 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			教員
16	地域連携	地域連携にかかわる機関の理解			近藤秀樹
17	地域連携	地域連携にかかわる機関の理解			近藤秀樹
18	地域連携	地域連携にかかわる機関の理解			近藤秀樹
19	地域連携	地域連携にかかわる機関の理解			近藤秀樹
20	多職種連携・協働の実際	地域・自立支援・施設における実際			近藤秀樹
21	多職種連携・協働の実際	地域・自立支援・施設における実際			近藤秀樹
22	多職種連携・協働の実際	地域・自立支援・施設における実際			近藤秀樹
23	多職種連携・協働の実際	地域・自立支援・施設における実際			近藤秀樹
24	介護従事者の安全	こころ・身体の健康管理			近藤秀樹
25	介護従事者の安全	こころ・身体の健康管理			近藤秀樹
26	介護従事者の安全	こころ・身体の健康管理			近藤秀樹
27	介護従事者の安全	こころ・身体の健康管理			近藤秀樹
28	振り返り	後期の振り返り			近藤秀樹
29	振り返り	後期の振り返り			近藤秀樹
30	まとめ	単位認定試験			近藤秀樹
【評価方法】					
科目の最終回に評価を実施する。授業出欠・授業態度・試験・レポートによる評価。					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(主な実務経験)
介護の基本Ⅲ	60	2	1年 前・後期	講義	宗形 昭典 (介護職員として介護施設に6年勤務)
【授業の概要】					
「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。					
【到達目標】					
①介護場面でのアクシデントとインシデントの説明ができる。 ②リスクマネジメントの意義や目的、考え方の理解ができる。					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉士養成講座3 第2版 「介護の基本Ⅰ」 (中央法規出版) 最新・介護福祉士養成講座4 第2版 「介護の基本Ⅱ」 (中央法規出版) 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			教員
1	介護における安全の確保とリスクマネジメント	介護の基本Ⅲの概要とスケジュール リスクマネジメントとは			宗形
2	介護における安全の確保とリスクマネジメント	介護福祉士に求められる安全・安心のケア			宗形
3	介護における安全の確保とリスクマネジメント	介護福祉士に求められる安全・安心のケア			宗形
4	介護における安全の確保とリスクマネジメント	尊厳ある暮らしの為のリスクマネジメント			宗形
5	介護における安全の確保とリスクマネジメント	尊厳ある暮らしの為のリスクマネジメント			宗形
6	介護における安全の確保とリスクマネジメント	ルールや約束事を守る事の意義			宗形
7	介護における安全の確保とリスクマネジメント	ルールや約束事を守る事の意義			宗形
8	介護における安全の確保とリスクマネジメント	実習の振り返り④(事故・ヒヤリ)			宗形
9	介護における安全の確保とリスクマネジメント	実習の振り返り④(事故・ヒヤリ)			宗形
10	介護における安全の確保とリスクマネジメント	実習の振り返り④(事故・ヒヤリ)			宗形
11	介護における安全の確保とリスクマネジメント	アクシデント・インシデント報告書の記入			宗形
12	介護における安全の確保とリスクマネジメント	アクシデント・インシデント報告書の記入			宗形
13	介護における安全の確保とリスクマネジメント	アクシデント・インシデント報告書(演習)			宗形
14	介護における安全の確保とリスクマネジメント	アクシデント・インシデント報告書(演習)			宗形
15	試験・まとめ	単位認定試験・解説・まとめ			宗形
【評価方法】					
科目の最終回に評価を実施する。授業出欠・授業態度・試験・レポートによる評価。					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(主な実務経験)
介護の基本Ⅲ	60	2	1年後期	講義	宗形 昭典 (介護職員として介護施設に6年勤務)
【授業の概要】					
「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。					
【到達目標】					
①感染者が発生したときの基本姿勢が理解できる。 ②感染症の予防と対策が理解できる。 ③感染症のリスクを想定して行動できる。					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉士養成講座4 第2版「介護の基本Ⅱ」(中央法規出版) 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			教員
16	介護における安全の確保とリスクマネジメント	感染症対策 感染症の意義とリスク			宗形
17	介護における安全の確保とリスクマネジメント	感染症対策 感染症の意義とリスク			宗形
18	介護における安全の確保とリスクマネジメント	感染症対策 介護場面での感染症対策			宗形
19	介護における安全の確保とリスクマネジメント	感染症対策 介護場面での感染症対策			宗形
20	介護における安全の確保とリスクマネジメント	感染症対策 指定感染症の対策			宗形
21	介護における安全の確保とリスクマネジメント	感染症対策 指定感染症の対策			宗形
22	介護における安全の確保とリスクマネジメント	感染症対策 安全な薬物療法を支える視点・連携			宗形
23	介護における安全の確保とリスクマネジメント	感染症対策 安全な薬物療法を支える視点・連携			宗形
24	労働環境の整備	労働条件の整備について			宗形
25	労働環境の整備	熱中症の予防について			宗形
26	労働環境の整備	けがを防ぐ労働環境の整備			宗形
27	労働環境の整備	安全点検シート 4S活動について			宗形
28	介護の基本のまとめ	リスクマネジメントの実際(演習)			宗形
29	介護の基本のまとめ	リスクマネジメントの実際(演習)			宗形
30	まとめ	単位認定試験・解説・まとめ			宗形
【評価方法】					
科目の最終回に評価を実施する。授業出欠・授業態度・試験・レポートによる評価。					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
コミュニケーション技術	60	2	1年前期	講義	宮尾 直木 介護支援専門員として居宅支援事業所に12年勤務
【授業の概要】					
利用者やその家族との支援関係の構築や、チームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。					
【到達目標】					
①コミュニケーションの意義や援助関係の構築にむけた基本的な考え方や技術を理解することができる。 ②さまざまなコミュニケーション障害のある人の特性と支援の方法を理解することができる。 ③チーム力を高めるコミュニケーションの方法について理解することができる。					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉士養成講座5 第2版「コミュニケーション技術」(中央法規出版) 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			教員
1	介護におけるコミュニケーションの基本	コミュニケーションの意義目的			宮尾
2	介護におけるコミュニケーションの基本	初対面の人との関わり(演習)			宮尾
3	介護におけるコミュニケーションの基本	初対面の人との関わり(演習)			宮尾
4	介護におけるコミュニケーションの基本	援助関係とコミュニケーション			宮尾
5	介護におけるコミュニケーションの基本	援助関係とコミュニケーション			宮尾
6	コミュニケーションの基本技術	傾聴・受容・共感			宮尾
7	コミュニケーションの基本技術	言語・非言語・準言語コミュニケーション			宮尾
8	コミュニケーションの基本技術	言語・非言語・準言語コミュニケーション			宮尾
9	対象者の特性に応じたコミュニケーション	うつ病・抑うつ・統合失調症の人への支援			宮尾
10	対象者の特性に応じたコミュニケーション	知的・高次脳機能障害の人への支援			宮尾
11	対象者の特性に応じたコミュニケーション	知的・高次脳機能障害の人への支援			宮尾
12	対象者の特性に応じたコミュニケーション	認知症の人への支援			宮尾
13	コミュニケーション態度に関する基本技術	利用者や職員等との関係づくりにおける基本的態度			宮尾
14	集団におけるコミュニケーション技術	集団活動におけるコミュニケーション			宮尾
15	単位認定試験	試験・まとめ			宮尾
【評価方法】					
筆記試験・出席状況・授業態度・レポートによる評価					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
コミュニケーション技術	60	2	1年次 前・後期	講義	宮尾 直木 介護支援専門員として居宅支援事業所に12年勤務
【授業の概要】					
利用者やその家族との支援関係の構築や、チームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。					
【到達目標】					
①コミュニケーションの意義や援助関係の構築にむけた基本的な考え方や技術を理解することができる。 ②さまざまなコミュニケーション障害のある人の特性と支援の方法を理解することができる。 ③チーム力を高めるコミュニケーションの方法について理解することができる。					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉士養成講座5 第2版「コミュニケーション技術」(中央法規出版) 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			教員
16	コミュニケーションの基本技術	アセスメント			宮尾
17	コミュニケーションの基本技術	会話における技術			宮尾
18	介護におけるチームのコミュニケーション	記録の技術(実習記録の振り返り)			宮尾
19	介護におけるチームのコミュニケーション	記録の技術(実習記録の振り返り)			宮尾
20	対象者の特性に応じたコミュニケーション	視覚・聴覚障害のある人への支援			宮尾
21	対象者の特性に応じたコミュニケーション	高次機能障害・認知症のある人への支援			宮尾
22	対象者の特性に応じたコミュニケーション	発達・知的・うつ・統合失調症のある人への支援			宮尾
23	家族とのコミュニケーション	家族との関係づくり			宮尾
24	家族とのコミュニケーション	家族への助言・指導・調整			宮尾
25	家族とのコミュニケーション	家族関係と介護ストレスへの対応			宮尾
26	介護におけるチームのコミュニケーション	報告・連絡・相談の技術			宮尾
27	介護におけるチームのコミュニケーション	会議・議事進行・説明の技術			宮尾
28	介護におけるチームのコミュニケーション	事例検討に関する技術			宮尾
29	コミュニケーション技術	まとめ			宮尾
30	まとめ	単位認定試験			宮尾
【評価方法】					
筆記試験・出席状況・授業態度・レポートによる評価					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
生活支援技術 I	120	4	1年前期	講義・演習	近藤 和也 (介護職員として介護施設に9年勤務)
【授業の概要】					
<p>尊厳保持の観点から、どのような状態にあっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守る事も含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。</p>					
【到達目標】					
<p>①生活支援とはどのようなものか、基本的な考え方を習得し自分の考えを述べる事が出来る。 ②ICFの視点を取り入れた生活支援の方法について学び、利用者の全体像、個別性を知る事の大切さについて述べる事ができる。 ③住まいの役割や機能を学習し、加齢変化に伴い注意が必要となる点を説明する事が出来る。 ④生活支援における福祉用具の重要性を理解し、利用者の状況に合わせた福祉用具の選定が出来る。</p>					
【テキスト・参考書】					
<p>最新・介護福祉士養成講座6 第2版「生活支援技術 I」(中央法規出版) 配布資料</p>					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			教員
1	生活支援の理解	生活支援の基本的な考え方			近藤和也
2	生活支援の理解	生活支援とチームアプローチ			近藤和也
3	生活支援の理解	生活支援と介護過程 (ICFの視点に基づく生活支援)			近藤和也
4	生活支援の理解	利用者を理解するためのICFの視点			近藤和也
5	居住環境の整備	住宅の役割と機能			近藤和也
6	居住環境の整備	生活空間・快適な室内空間			近藤和也
7	居住環境の整備	安全に暮らすための生活環境			近藤和也
8	居住環境の整備	高齢者・障がい者の住まい			近藤和也
9	居住環境の整備	住宅改修の基礎知識			近藤和也
10	居住環境の整備	住宅改修と福祉用具の活用			近藤和也
11	居住環境の整備	居住環境の整備における多職種との連携			近藤和也
12	福祉用具の意義	福祉用具とは・福祉用具の役割			近藤和也
13	福祉用具の意義	福祉用具(貸与・購入)の利用方法①			近藤和也
14	福祉用具の意義	福祉用具(貸与・購入)の利用方法②			近藤和也
15	福祉用具の意義	生活支援における福祉用具の重要性			近藤和也
16	福祉用具の意義	介護ロボットとは			近藤和也
17	福祉用具の意義	福祉用具の種類			近藤和也
18	福祉用具の意義	適切な福祉用具選定の視点			近藤和也
19	福祉用具の意義	適切な福祉用具選定の視点(演習)			近藤和也
20	単位認定試験	試験・まとめ			近藤和也
【評価方法】					
<p>科目の最終回に評価を実施する。授業の出欠・受講態度・試験・レポートによる評価。</p>					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
生活支援技術 I	120	4	1年 前・後期	講義・演習	近藤 和也 (介護職員として介護施設に9年勤務)
【授業の概要】					
尊厳保持の観点から、どのような状態にあっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守る事も含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。					
【到達目標】					
①高齢者に起こりやすい主な事故と予防の視点を学び、緊急時の対応について説明する事が出来る。 ②災害時における生活支援について学び、介護福祉士としての役割や機能を述べる事が出来る。 ③家事支援の基本となる知識を学び、自立支援・重度化防止について自分の考えを述べる事が出来る					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉士養成講座6 第2版「生活支援技術 I」(中央法規出版) 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			教員
21	応急手当の知識と技術	想定される事故と予防の視点			近藤和也
22	応急手当の知識と技術	応急手当とは			近藤和也
23	応急手当の知識と技術	応急手当の実際			近藤和也
24	災害時における生活支援	被災地で活動する際の心構え			近藤和也
25	災害時における生活支援	被災地で活動する際の心構え (DVD)			近藤和也
26	災害時における生活支援	被災地で活動する際の心構え (DVD)			近藤和也
27	災害時における生活支援	災害時における生活支援			近藤和也
28	災害時における生活支援	災害時における生活支援			近藤和也
29	自立に向けた家事の介護	家庭生活の理解			近藤和也
30	自立に向けた家事の介護	家庭生活の理解			近藤和也
31	自立に向けた家事の介護	高齢者の身体機能と栄養			近藤和也
32	自立に向けた家事の介護	自立に向けた家事の介護 (調理の意義・栄養素の理解)			近藤和也
33	自立に向けた家事の介護	自立に向けた家事の介護 (食事と病気について)			近藤和也
34	自立に向けた家事の介護	自立に向けた家事の介護 (食品衛生・調理の基本)			近藤和也
35	自立に向けた家事の介護	自立に向けた家事の介護 (被服生活の基礎知識)			近藤和也
36	自立に向けた家事の介護	自立に向けた家事の介護 (被服と皮膚の衛生保持)			近藤和也
37	自立に向けた家事の介護	自立に向けた家事の介護 (衣類・寝具の衛生管理)			近藤和也
38	自立に向けた家事の介護	家事の介護における多職種との連携			近藤和也
39	自立に向けた家事の介護	高齢者向けのおやつ作り (実習)			近藤和也
40	単位認定試験	試験・まとめ			近藤和也
【評価方法】					
科目の最終回に評価を実施する。授業の出欠・受講態度・試験・レポートによる評価					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員
生活支援技術Ⅱ	120	4	1年前期	演習	本柳瑞恵 (介護職員として介護施設に19年勤務) 宗形昭典 (介護職員として介護施設に6年勤務)
【授業の概要】 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。					
【到達目標】 ①自立に向けた各生活行為とは何かを理解できる。 ②自立に向けた身体介護技術の基本を実践できる。					
【テキスト・参考書】 最新・介護福祉士養成講座7 第2版「生活支援技術Ⅱ」(中央法規出版) 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			教員
1	授業の概要	授業の概要・ルール テストの流れ			本柳 宗形
2	自立生活に向けた生活支援	ベッドメイキング①			本柳 宗形
3	自立生活に向けた生活支援	ベッドメイキング②			本柳 宗形
4	自立生活に向けた生活支援	ベッドメイキング③			本柳 宗形
5	自立生活に向けた生活支援	洗面・洗髪のカ			本柳 宗形
6	自立生活に向けた生活支援	洗面・洗髪のカ			本柳 宗形
7	自立生活に向けた生活支援	着脱(身だしなみ・靴下) 爪切り			本柳 宗形
8	自立生活に向けた生活支援	食事の意義・目的 口腔体操			本柳 宗形
9	自立生活に向けた生活支援	食膳の基本・声掛け 口腔体操			本柳 宗形
10	自立生活に向けた生活支援	杖について 歩行・片麻痺のある人への介助			本柳 宗形
11	自立生活に向けた生活支援	車いすの操作 車いす各パーツの名称			本柳 宗形
12	自立生活に向けた生活支援	実習へ向けて技術面の姿勢や態度 (送迎時・レクリエーション時等)			本柳 宗形
13	自立生活に向けた生活支援	ベッド上での移動 (上方・水平・仰臥位→側臥位)			本柳 宗形
14	自立生活に向けた生活支援	移動・移乗 (起き上がり・端座位時の姿勢・ポイント)			本柳 宗形
15	自立生活に向けた生活支援	単位認定試験 実技試験(ベッドメイキング)			本柳 宗形
【評価方法】 単位認定試験(実技)・授業態度・出席					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員
生活支援技術Ⅱ	120	4	1年 前・後期	演習	本柳瑞恵 (介護職員として介護施設に19年勤務) 宗形昭典 (介護職員として介護施設に6年勤務)
【授業の概要】 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。					
【到達目標】 ①自立に向けた各生活行為とは何かを理解できる。 ②自立に向けた身体介護技術の基本を実践できる。					
【テキスト・参考書】 最新・介護福祉士養成講座7 第2版 「生活支援技術Ⅱ」 (中央法規出版) 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			教員
16	自立生活に向けた生活支援	移動・移乗一連の流れ			本柳宗形
17	自立生活に向けた生活支援	スライディングボード・移動用リフトを使った移乗方法			本柳宗形
18	自立生活に向けた生活支援	食事介助 (トロミを使った食事)			本柳宗形
19	自立生活に向けた生活支援	ベッド上での食事介助			本柳宗形
20	自立生活に向けた生活支援	着脱 (端座位で前開き・かぶり着の衣類着脱)			本柳宗形
21	自立生活に向けた生活支援	着脱 (ベッド上での前開き上着)			本柳宗形
22	自立生活に向けた生活支援	着脱 (ベッド上でのかぶり着)			本柳宗形
23	自立生活に向けた生活支援	浴衣の着脱 拘縮のある人への着脱介助			本柳宗形
24	自立生活に向けた生活支援	排泄の意義目的 (清拭・陰部洗浄)			本柳宗形
25	自立生活に向けた生活支援	清拭・陰部洗浄の方法			本柳宗形
26	自立生活に向けた生活支援	オムツ業者によるオムツ講座			本柳宗形
27	自立生活に向けた生活支援	オムツ交換の介助①			本柳宗形
28	自立生活に向けた生活支援	オムツ交換の介助②			本柳宗形
29	自立生活に向けた生活支援	拘縮・体幹の捻じれのある人へのオムツ介助			本柳宗形
30	自立生活に向けた生活支援	単位認定試験 実技試験 (ベッド移動・オムツ交換)			本柳宗形
【評価方法】 単位認定試験 (実技) ・授業態度・出席					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員
生活支援技術Ⅱ	120	4	1年 前・後期	演習	本柳瑞恵 (介護職員として介護施設に19年勤務) 宗形昭典 (介護職員として介護施設に6年勤務)
【授業の概要】 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。					
【到達目標】 ①自立に向けた各生活行為とは何かを理解できる。 ②自立に向けた身体介護技術の基本を実践できる。					
【テキスト・参考書】 最新・介護福祉士養成講座7 第2版 「生活支援技術Ⅱ」 (中央法規出版) 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			教員
31	自立生活に向けた生活支援	車椅子での介助 (校外体験)			本柳 宗形
32	自立生活に向けた生活支援	全盲の人への歩行介助 (校外体験)			本柳 宗形
33	自立生活に向けた生活支援	口腔内洗浄の介助 入れ歯の洗浄方法			本柳 宗形
34	自立生活に向けた生活支援	歯垢染色剤を使い、「口腔ケアスポンジ」「ウェットティッシュ」体験			本柳 宗形
35	自立生活に向けた生活支援	トイレ介助 尿器・便器を使った介助			本柳 宗形
36	自立生活に向けた生活支援	ウロパックの排泄介助 ストマの排泄介助			本柳 宗形
37	自立生活に向けた生活支援	実習に向けての2人移乗・ポジショニング			本柳 宗形
38	自立生活に向けた生活支援	フリーで個人練習			本柳 宗形
39	自立生活に向けた生活支援	5日間の実習を振り返っての個人練習			本柳 宗形
40	自立生活に向けた生活支援	日間の実習を振り返っての個人練習 各自質疑応答			本柳 宗形
41	自立生活に向けた生活支援	I-2実習の振り返りと発表準備			本柳 宗形
42	自立生活に向けた生活支援	I-3実習の振り返りと発表準備			本柳 宗形
43	自立生活に向けた生活支援	振り返りの発表			本柳 宗形
44	自立生活に向けた生活支援	単位認定試験 実技試験 (着脱・移乗)			本柳 宗形
45	自立生活に向けた生活支援	単位認定試験 実技試験 (着脱・移乗)			本柳 宗形
【評価方法】 単位認定試験 (実技) ・授業態度・出席					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(主な実務経験)
介護過程 I	60	2	1年前期	講義・演習	本柳瑞恵 (介護職員として介護施設に19年勤務)
【授業の概要】					
介護実践における介護過程の意義の理解をふまえ、介護過程を展開するための一連のプロセスを理解する学習とする。					
【到達目標】					
①介護過程とは何かを説明することができる。 ②生活支援の考え方と介護過程の必要性について、自分の考えを述べることができる。 ③介護過程の展開をするための一連のプロセスについて述べるすることができる。 ④アセスメントの重要性を理解し生活課題を導くことができる。					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉士養成講座9 第2版 「介護過程」 中央法規出版 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			教員
1	介護過程とは	ガイダンス 介護過程の意義・目的			本柳
2	介護過程とは	介護過程の全体像 生活支援における介護過程の必要性			本柳
3	介護過程とは	アセスメントの思考の方法・視点			本柳
4	介護過程とは	介護過程のプロセス			本柳
5	介護過程の理解	アセスメント（情報収集）			本柳
6	介護過程の理解	アセスメント演習①（情報収集）			本柳
7	介護過程の理解	アセスメント演習②（情報収集）			本柳
8	介護過程の理解	情報の解釈・関連付け・統合化とは			本柳
9	介護過程の理解	アセスメント演習①（情報の解釈・関連付け・統合化）			本柳
10	介護過程の理解	アセスメント演習②（情報の解釈・関連付け・統合化）			本柳
11	介護過程の理解	アセスメント演習③（情報の解釈・関連付け・統合化）			本柳
12	介護過程の理解	プロセスレコード			本柳
13	介護過程の理解	プロセスレコード			本柳
14	介護過程の理解	プロセスレコード			本柳
15	まとめ	単位認定試験・解説			本柳
【評価方法】					
筆記試験・授業態度、意欲・提出物・出席状況により総合的な評価とする。					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(主な実務経験)
介護過程 I	60	2	1年 前・後期	講義・演習	本柳瑞恵 (介護職員として介護施設に19年勤務)
【授業の概要】 介護実践における介護過程の意義の理解をふまえ、介護過程を展開するための一連のプロセスを理解する学習とする。					
【到達目標】 ①介護過程とは何かを説明することができる。 ②生活支援の考え方と介護過程の必要性について、自分の考えを述べることができる。 ③介護過程の展開をするための一連のプロセスについて述べるすることができる。 ④アセスメントの重要性を理解し生活課題を導くことができる。					
【テキスト・参考書】 最新・介護福祉士養成講座9 第2版「介護過程」中央法規出版 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			教員
16	介護過程の理解	アセスメントの演習(実習にむけて)①			本柳
17	介護過程の理解	アセスメントの演習(実習にむけて)②			本柳
18	介護過程の理解	アセスメントの演習(実習にむけて)③			本柳
19	介護過程の理解	アセスメントの演習(実習にむけて)④			本柳
20	介護過程の理解	アセスメントの演習(実習にむけて)⑤			本柳
21	介護過程の理解	アセスメントの演習(実習にむけて)⑥			本柳
22	介護過程の理解	アセスメントの演習(実習にむけて)⑦			本柳
23	介護過程の理解	アセスメントの演習(実習にむけて)⑧			本柳
24	介護過程の理解	アセスメントの演習(実習にむけて)⑨			本柳
25	介護過程の理解	実習に向けての準備			本柳
26	介護過程の理解	実習の振り返り			本柳
27	介護過程の理解	アセスメントの振り返り			本柳
28	介護過程の理解	アセスメントの振り返り			本柳
29	介護過程の理解	アセスメントの振り返り発表			本柳
30	まとめ	単位認定試験・解説			本柳
【評価方法】 筆記試験・授業態度・提出物・出席状況により総合的な評価とする。					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員
介護総合演習 I	60	2	1年前期	演習	宗形昭典 (介護職員として介護施設に6年勤務)
【授業の概要】					
<p>実習の教育効果を上げるため、実習前の介護技術の確認や施設などのオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に生徒が養成施設などにおいて学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開能力などについて個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。</p>					
【到達目標】					
<p>①実習施設の意義と役割を自分の言葉で説明できる。 ②実習での一連の課題と流れについて理解している。</p>					
【テキスト・参考書】					
<p>最新・介護福祉士養成講座10 第2版 「介護総合演習・実習」(中央法規出版) 配布資料</p>					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			教員
1	実習 I-1 の意義・目的	実習の意義・目的 実習でのルール			宗形
2	実習 I-1 の展開	実習先伝達 今後の動きについて			宗形
3	実習 I-1 の展開	実習中の流れについて 個人票の書き方・作成			宗形
4	実習 I-1 の展開	個人票作成			宗形
5	実習 I-1 の展開	事前学習の書き方・作成			宗形
6	実習 I-1 の展開	事前学習作成			宗形
7	実習 I-1 の展開	実習計画書作成			宗形
8	実習 I-1 の展開	記録の書き方①			宗形
9	実習 I-1 の展開	実習生としての接遇について			宗形
10	実習 I-1 の展開	実習先電話連絡 実習先からの連絡事項			宗形
11	実習 I-1 の展開	実習時の服装・髪型のルール・確認 実習ファイル配布 出席簿の取り扱い			宗形
【評価方法】					
<p>提出物・授業態度・出席により評価する。</p>					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員
介護総合演習Ⅱ	60	2	1年後期	演習	宗形昭典 (介護職員として介護施設に6年勤務)
【授業の概要】					
<p>実習の教育効果を上げるため、実習前の介護技術の確認や施設などのオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設などにおいて学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開能力などについて個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。</p>					
【到達目標】					
<p>①実習中に体験した事を冷静に振り返り客観視し整理できる。 ②実習課題をアウトプットし次回実習の課題を明確にできる。</p>					
【テキスト・参考書】					
<p>最新・介護福祉士養成講座第10 第2版 「介護総合演習・実習」(中央法規出版) 配布資料</p>					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			教員
6	実習Ⅰ-2の評価	礼状作成 報告会までのスケジュール			宗形
7	実習Ⅰ-2の評価	実習の振り返り			宗形
8	実習Ⅰ-2の評価	発表グループ発表 報告会テーマ選定			宗形
9	実習Ⅰ-2の評価	報告会テーマ選定			宗形
10	実習Ⅰ-2の評価	報告会テーマ選定			宗形
11	実習Ⅰ-2の評価	報告会テーマ選定			宗形
12	実習Ⅰ-2の評価	報告会資料作り			宗形
13	実習Ⅰ-2の評価	報告会資料作り			宗形
14	実習Ⅰ-2の評価	報告会資料作り			宗形
15	実習Ⅰ-2の評価	報告会資料作り			宗形
16	実習Ⅰ-2の評価	報告会リハーサル			宗形
17	実習Ⅰ-2の評価	報告会リハーサル			宗形
18	実習Ⅰ-2の評価	報告会リハーサル 報告会の流れ			宗形
19	実習Ⅰ-2の評価	実習報告会			宗形
20	実習Ⅰ-2の評価	実習報告会			宗形
【評価方法】					
実習報告会・授業態度・提出物・出席により評価する					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員	
介護実習 I - 1 段階	72	2	1 年前期	実習	宗形昭典 (介護職員として介護施設に6年勤務) 本柳瑞恵 (介護職員として介護施設に19年勤務)	
【授業の概要】						
<p>個々の生活リズムや個性を理解する観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員として介護福祉士の役割について理解する学習とする。</p> <p>個別ケアを行うためにこの生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実習後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。</p>						
【到達目標】						
<p>①1日の流れや業務内容を知り、利用者の生活や介護職の役割を理解できる。</p> <p>②利用者や職員とのかかわりを通し、コミュニケーションの必要性や重要性が分かる。</p>						
【テキスト・参考書】						
最新・介護福祉士要請講座第10 第2版 「介護総合演習・介護実習」(中央法規出版) 介護実習の手引き						
【授業計画】						
回数	具体的内容				教員	
1	*実習内容の詳細については、実習の手引き、実習計画書参照				宗形	
2					宗形	
3					実習 I については ①施設における利用者の生活の流れを知り、介護職員の業務を学ぶことを通して、施設における介護機能・役割を学ぶ。	宗形
4					②利用者のニーズを知り、基本的な生活支援技術を学ぶことを通して、コミュニケーションの大切さを学ぶ。	宗形
5					③実習の中で学ぶ知識、技術などが、利用者の介護過程であることを学ぶ。	宗形
6					実習 I - 1 段階 (1 年次) 実習先：通所介護・通所リハビリ・訪問介護	宗形
7					1回目：7/4(月)～ 7/6(水) (1 年次) 実習先：通所介護・通所リハビリ・訪問介護	本柳
8					2回目：7/11(月)～ 7/13(水)	本柳
9					(2 年次) 実習先：障害者施設 3回目：7/4(月)～ 7/6(水)	本柳
【評価方法】						
実習態度・提出物・出席数						
【その他】						

科目名	時間	単位	履修年次	形態	主たる担当教員
介護実習Ⅰ - 2段階	192	5	1年 前・後期	実習	宗形昭典 (介護職員として介護施設に6年勤務)
【授業の概要】					
<p>個々の生活リズムや個性を理解する観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員として介護福祉士の役割について理解する学習とする。</p> <p>個別ケアを行うためにこの生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実習後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。</p>					
【到達目標】					
<p>①基本となる介護の知識・技術を身につけ利用者様に応じた適切な支援方法が理解できる。</p> <p>②アセスメントを通し利用者理解を深めニーズを把握できる。</p>					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉士要請講座第10 第2版 「介護総合演習・介護実習」(中央法規出版) 介護実習の手引き					
【授業計画】					
回数	具体的内容				教員
1					宗形
2	実習Ⅰ-2の目標				宗形
3	①基本となる介護の知識・技術を身につけ利用者に応じた適切な支援方法を学ぶ。				宗形
4	②アセスメントを通し利用者理解を深めニーズを把握する。				宗形
5	期間 ・令和4年9月26日(月)～令和4年10月31日(月)の述べ24日間 ※帰校日：令和4年10月14日(金)(介護総合演習Ⅱで行う)				宗形
6	実習時間 ・第1週目は、平日の日勤業務で実習を行う。				宗形
7	・第2週目以降に早番・遅番の変則勤務を1回ずつ体験し、土日、祝日も実習日として可能となる。				宗形
8	実習内容 ・オリエンテーションの実施により施設概要を理解する。				宗形
9	・利用者や職員等との関係づくり。				宗形
10	・利用者の個性に合わせた生活支援技術を学び実践。				宗形
11	・多職種の役割を学ぶ。				宗形
12	準備物 ・筆記用具、実習ファイル、印鑑、メモ帳、辞書、学校指定のジャージ、上履き				宗形
13	実習課題 ・介護過程の課題「アセスメント」に取り組む				宗形
14	・アクシデント・ヒヤリ報告書の作成。				宗形
15	*実習内容の詳細については、実習の手引き、実習計画書参照				宗形
【評価方法】					
実習指導者による介護実習評価表・巡回時等での実習態度・提出物					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(主な実務経験)
発達と老化の理解 I	30	1	1年前期	講義	村越 美穂子 (保健師として市役所に38年勤務)
【授業の概要】					
発達の観点からの老化を理解し、老化に関する真理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。					
【到達目標】					
①発達段階について理解することができる。 ②老化に伴う身体的な変化と生活への影響について理解することができる。					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉士養成講座12 第2版「発達と老化の理解」 (中央法規出版) イラストでわかる 高齢者のからだと病気 (中央法規出版) 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			教員
1	人間の成長と発達	成長・発達とは・成熟とは 成長・発達に影響する要因・発達理論			村越
2	人間の発達段階と発達課題	発達理論 発達段階と発達課題			村越
3	人間の発達段階と発達課題	身体的機能の成長と発達			村越
4	人間の発達段階と発達課題	心理的機能の発達 社会的機能の発達			村越
5	老年期の特徴と発達課題	老年期の定義・老化とは			村越
6	老年期の特徴と発達課題	老年期の発達課題 老年期をめぐる今日的課題			村越
7	老化にともなうところとからだの変化と生活	老化にともなう身体的な変化と生活への影響①			村越
8	老化にともなうところとからだの変化と生活	老化にともなう身体的な変化と生活への影響②			村越
9	老化にともなうところとからだの変化と生活	老化にともなう身体的な変化と生活への影響③			村越
10	老化にともなうところとからだの変化と生活	老化にともなう身体的な変化と生活への影響④			村越
11	老化にともなうところとからだの変化と生活	老化にともなう心理的な変化と生活への影響①			村越
12	老化にともなうところとからだの変化と生活	老化にともなう心理的な変化と生活への影響②			村越
13	老化にともなうところとからだの変化と生活	老化にともなう社会的な変化と生活への影響①			村越
14	老化にともなうところとからだの変化と生活	老化にともなう社会的な変化と生活への影響②			村越
15	試験・まとめ	単位認定試験・まとめ			村越
【評価方法】					
科目の最終回に評価を実施する。授業出欠・授業態度・試験による評価。					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(主な実務経験)
発達と老化の理解Ⅱ	30	1	1年後期	講義	村越美穂子 (保健師として市役所に38年勤務)
【授業の概要】					
発達の観点からの老化を理解し、老化に関する真理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。					
【到達目標】					
①高齢者の疾患の特徴について理解することができる。 ②高齢者に多い疾患、症状と生活上の留意点について理解することができる。					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉士養成講座12 第2版「発達と老化の理解」(中央法規出版) イラストでわかる 高齢者のからだと病気(中央法規出版) 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			教員
1	高齢者と健康	健康長寿に向けての健康 高齢者の症状・疾患の特徴			村越
2	高齢者と健康	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 (骨格系・筋系)			村越
3	高齢者と健康	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 (骨格系・筋系)			村越
4	高齢者と健康	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 (脳・神経系)			村越
5	高齢者と健康	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 (皮膚・感覚系)			村越
6	高齢者と健康	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 (循環器系)			村越
7	高齢者と健康	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 (循環器系)			村越
8	高齢者と健康	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 (呼吸器系)			村越
9	高齢者と健康	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 (消化器系)			村越
10	高齢者と健康	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 (腎・泌尿器系)			村越
11	高齢者と健康	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 (内分泌・代謝系)			村越
12	高齢者と健康	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 (歯・口腔疾患、悪性新生物)			村越
13	高齢者と健康	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 (感染症、精神疾患)			村越
14	高齢者と健康	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 (その他、復習)			村越
15	試験・まとめ	単位認定試験・まとめ			村越
【評価方法】					
科目の最終回に評価を実施する。授業出欠・授業態度・試験による評価。					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
認知症の理解	30	1	1年前期	講義	吉田朋子 (看護師として医療機関に10年勤務)
【授業の概要】					
脳のしくみを理解したうえで認知症によって起こるメカニズムの変化を習得する。主な疾患についての症状・診断・治療・予防についても学ぶことで本人の心理状況や周囲の環境にも配慮した介護の視点を理解できる学習とする。					
【到達目標】					
①認知症とは何か、脳の構造と認知症の病理について説明できる。 ②認知症の人の心理について考え、支援との関連について説明できる。 ③主な認知症の症状、診断、治療、予防について学び説明することができる。					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉養成講座13 第2版 「認知症の理解」(中央法規出版) 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			教員
1	認知症の基礎的理解	現状と今後・認知症とは何か			吉田
2	認知症の基礎的理解	脳のしくみ			吉田
3	認知症の基礎的理解	認知症の人の心理			吉田
4	認知症の症状・診断・治療・予防	中核症状の理解①			吉田
5	認知症の症状・診断・治療・予防	中核症状の理解②			吉田
6	認知症の症状・診断・治療・予防	生活障害の理解			吉田
7	認知症の症状・診断・治療・予防	BPSDの理解①			吉田
8	認知症の症状・診断・治療・予防	BPSDの理解②			吉田
9	認知症の症状・診断・治療・予防	認知症の診断と重症度			吉田
10	認知症の症状・診断・治療・予防	認知症の原因疾患と症状・生活障害①			吉田
11	認知症の症状・診断・治療・予防	認知症の原因疾患と症状・生活障害②			吉田
12	認知症の症状・診断・治療・予防	認知症の治療薬			吉田
13	認知症の症状・診断・治療・予防	認知症の予防①			吉田
14	認知症の症状・診断・治療・予防	認知症の予防②			吉田
15	単位認定試験・まとめ	試験・まとめ			吉田
【評価方法】					
科目の最終回に評価を実施する。授業出欠、授業態度、試験、レポートによる評価。					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(主な実務経験)
認知症援助方法論	30	1	1年後期	講義	石井利幸 (作業療法士として介護施設に20年勤務)
【授業の概要】					
認知症に関する基礎的知識を習得すると共に認知症のある人の体験や意思表示が困難特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。					
【到達目標】					
①認知症のひとの内的世界、主観的世界を理解することができる。 ②認知症の人への具体的な支援方法について理解することができる。 ③認知症の人の現存機能に着目した支援について理解することができる。					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉士養成講座13 第2版 認知症の理解 (中央法規出版) 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			教員
1	認知症ケアの実際	脳の構造と機能			石井
2	認知症ケアの実際	アルツハイマー型認知症の基本的知識			石井
3	認知症ケアの実際	レビー小体型認知症・脳血管性認知症・前頭側頭型認知症の基本的知識			石井
4	認知症ケアの実際	認知症の人の心理状態と体験世界			石井
5	認知症ケアの実際	認知機能の基本的知識			石井
6	認知症ケアの実際	認知症の人の主観的世界の推察			石井
7	認知症ケアの実際	認知機能障害のスクリーニング演習			石井
8	認知症ケアの実際	環境が認知症の人に与える影響			石井
9	認知症ケアの実際	BPSDの理解と対応の方法			石井
10	認知症ケアの実際	認知症の人の生活の捉え方			石井
11	認知症ケアの実際	認知症の人の現存能力を引き出すADLのケア			石井
12	認知症ケアの実際	ADL改善にむけた支援計画立案			石井
13	認知症ケアの実際	家族支援と社会資源を活用したケア			石井
14	認知症ケアの実際	認知症サポーター養成講座			石井
15	単位認定試験	試験・まとめ			石井
【評価方法】					
科目の最終回に評価を実施する。授業出欠・授業態度・試験・レポートによる評価。					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
障害の理解	60	2	1年後期	講義	吉田朋子 (看護師として医療機関に10年勤務)
【授業の概要】					
障害の概念や基本理念・関連制度など理解を深めたうえで、障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識と特性に応じた支援を習得できるようにする。また、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点や地域でのサポート体制についても関連づけた学びとする。					
【到達目標】					
①障害の概念や制度、関連制度との関係性などを理解し、その後の学びと関連づけられる。 ②肢体不自由・視覚障害・聴覚言語障害・重複障害・内部障害・重症心身障害の原因や種類、分類について学び、障害の特性を理解し、生活面や心理面など介護の視点での支援方法が習得できる					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉養成講座14 第2版 「障害の理解」 (中央法規出版) 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			教員
1	障害の基礎的理解	障害の概念・障害者福祉の基本理念			吉田
2	障害の基礎的理解	障害者福祉に関連する制度・介護保険制度			吉田
3	障害の基礎的理解	障害のある人の心理			吉田
4	障害のある人の生活の理解	肢体不自由とは・障害の種類・原因・特性の理解			吉田
5	障害のある人の生活の理解	肢体不自由のある人の心理的・生活面の理解・介護上の留意点			吉田
6	障害のある人の生活の理解	視覚障害への理解(医学的・心理的・生活面・制度面・介護上の留意点)			吉田
7	障害のある人の生活の理解	聴覚・言語障害への理解(医学的・心理的・生活面・制度面・介護上の留意点)			吉田
8	障害のある人の生活の理解	重複障害への理解(医学的・心理的・生活面・制度面・介護上の留意点)			吉田
9	障害のある人の生活の理解	内部障害への理解①(心臓機能障害)			吉田
10	障害のある人の生活の理解	内部障害への理解②(腎臓機能障害)			吉田
11	障害のある人の生活の理解	内部障害への理解③(呼吸機能障害)			吉田
12	障害のある人の生活の理解	内部障害への理解④(膀胱・直腸機能障害)			吉田
13	障害のある人の生活の理解	内部障害への理解⑤(ヒト免疫不全ウイルス・肝機能障害)			吉田
14	障害のある人の生活の理解	重症心身障害への理解(医学的・心理的・生活面・制度面・介護上の留意点)			吉田
15	単位認定試験・まとめ	試験・まとめ			吉田
【評価方法】					
・科目の最終回に評価を実施する・授業出欠、授業態度、試験、レポートによる評価					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
障害の理解	60	2	1年後期	講義	吉田朋子 (看護師として医療機関に10年勤務)
【授業の概要】					
障害の概念や基本理念・関連制度など理解を深めたうえで、障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識と特性に応じた支援を習得できるようにする。また、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点や地域でのサポート体制についても関連づけた学びとする。					
【到達目標】					
①知的障害・精神障害・高次脳機能障害・発達障害・難病の原因や種類、分類について学び、障害の特性を理解し、生活面や心理面など介護の視点での支援方法が習得できる ②関連機関や地域との連携、チームアプローチの方法について説明できる					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉養成講座14 第2版 「障害の理解」 (中央法規出版) 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			教員
16	障害のある人の生活の理解	知的障害への理解 (医学的・心理的・生活面・制度面・介護上の留意点) ①			吉田
17	障害のある人の生活の理解	知的障害への理解 (医学的・心理的・生活面・制度面・介護上の留意点) ②			吉田
18	障害のある人の生活の理解	精神障害への理解 (医学的・心理的・生活面・制度面・介護上の留意点) ①			吉田
19	障害のある人の生活の理解	精神障害への理解 (医学的・心理的・生活面・制度面・介護上の留意点) ②			吉田
20	障害のある人の生活の理解	高次脳機能障害への理解 (医学的・心理的・生活面・制度面・介護上の留意点) ①			吉田
21	障害のある人の生活の理解	高次脳機能障害への理解 (医学的・心理的・生活面・制度面・介護上の留意点) ②			吉田
22	障害のある人の生活の理解	発達障害への理解 (医学的・心理的・生活面・制度面・介護上の留意点) ①			吉田
23	障害のある人の生活の理解	発達障害への理解 (医学的・心理的・生活面・制度面・介護上の留意点) ②			吉田
24	障害のある人の生活の理解	難病への理解 (医学的・心理的・生活面・制度面・介護上の留意点) ①			吉田
25	障害のある人の生活の理解	難病への理解 (医学的・心理的・生活面・制度面・介護上の留意点) ②			吉田
26	障害のある人の生活の理解	難病への理解 (医学的・心理的・生活面・制度面・介護上の留意点) ③			吉田
27	連携と協働	チームアプローチ 地域のサポート体制			吉田
28	家族への支援	家族支援とはなにか			吉田
29	家族への支援	家族の介護力の評価と介護負担の軽減			吉田
30	単位認定試験・まとめ	試験・まとめ			吉田
【評価方法】					
科目の最終回に評価を実施する。授業出欠、授業態度、試験、レポートによる評価。					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(実務経験の有無)
こころとかだのしくみⅠ	30	1	1年前期	講義	吉田朋子 (看護師として医療機関に10年勤務)
【授業の概要】					
こころとかだのしくみを理解していくことで、加齢やさまざまな疾患で生じる生活行為に対しての生活障害がどのようなメカニズムで生じるかを理解できる学習とする。また、生活行為での観察ポイントや連携の必要性、変化に気づける知識を学習する。					
【到達目標】					
①こころのしくみやからだのしくみを説明できる ②生活行為においてのしくみを説明できる ③生活障害が及ぼす心身への影響と変化の気づきを理解し説明できる					
【テキスト・参考書】					
最新・介護福祉養成講座11 第2版 「こころとかだのしくみ」(中央法規出版) 配布資料					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			教員
1	健康とは何か	健康の定義・健康観			吉田
2	こころのしくみを理解する	人間の欲求・自己実現と尊厳			吉田
3	こころのしくみを理解する	こころのしくみの基礎			吉田
4	からだのしくみを理解する	からだの部位の役割①			吉田
5	からだのしくみを理解する	からだの部位の役割②			吉田
6	からだのしくみを理解する	関連する役割、および薬の知識			吉田
7	移動に関連したしくみ	移動のしくみ			吉田
8	移動に関連したしくみ	心身機能低下が移動に及ぼす影響・変化の気づきと対応			吉田
9	身じたくに関連したしくみ	身じたくのしくみ			吉田
10	身じたくに関連したしくみ	心身機能低下が身じたくに及ぼす影響・変化の気づきと対応			吉田
11	食事に関連したしくみ	食事のしくみ			吉田
12	食事に関連したしくみ	心身機能低下が食事に及ぼす影響・変化の気づきと対応			吉田
13	排泄に関連したしくみ	排泄のしくみ			吉田
14	排泄に関連したしくみ	心身機能低下が排泄に及ぼす影響・変化の気づきと対応			吉田
15	単位認定試験・まとめ	試験・まとめ			吉田
【評価方法】					
科目の最終回に評価を実施する。授業出欠、授業態度、試験、レポートによる評価。					
【その他】					

科目名	時間	単位	学年・期	形態	主たる担当教員(主な実務経験)
医学一般	30	1	1年前期	講義	穂積彰一 (開業医として34年)
【授業の概要】					
人間のからだの解剖や生理的機能、からだの動きのメカニズムを理解し、それらに関連した老いと疾患について基礎知識を学ぶ。					
【到達目標】					
①人のからだについて各器官の解剖・生理について説明することができる。 ②人のからだのメカニズムについて理解できる。 ③人の老いや疾患について理解できる。					
【テキスト・参考書】					
イラストでわかる「高齢者のからだと病気」(中央法規出版)					
【授業計画】					
回数	テーマ	具体的内容			教員
1	ガイダンス	老いるとは			穂積
2	脳・神経系の変化	脳・神経系			穂積
3	脳・神経系の変化	脳・神経系			穂積
4	感覚器の変化	感覚器			穂積
5	感覚器の変化	感覚器			穂積
6	運動器の変化	運動器			穂積
7	運動器の変化	運動器			穂積
8	消化器の変化	消化器			穂積
9	消化器の変化	消化器			穂積
10	呼吸器の変化	呼吸器			穂積
11	呼吸器の変化	呼吸器			穂積
12	循環器の変化	循環器			穂積
13	循環器・泌尿器の変化	循環器及び泌尿器			穂積
14	血液・リンパ系の変化	血液・リンパ系・生殖器・内分泌			穂積
15	単位認定試験	試験・まとめ			穂積
【評価方法】					
科目の最終回に評価を実施する。試験結果・授業態度・出席状況・課題による評価。					
【その他】					